

和歌山下津港

和歌山県県土整備部港湾空港局

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

☎073-441-3157

URL：https://www.pref.wakayama.lg.jp/



1. 概況

本港は、和歌山県の北端に位置し、和歌山市、海南市、有田市の3市で形成し、昭和40年4月に特定重要港湾に指定されている。（平成23年4月より国際拠点港湾に名称変更）

本港の位置する紀伊水道地域は、太平洋航路に接続し、大阪湾や瀬戸内海へ出入りする船舶の通り道であり海上交通の要衝となっている。

本港はこの地理的利点を生かし、①大阪湾海上交通の負荷軽減②陸上高速交通網と連携した物流の効率化③大規模地震等の災害に備えたリスク分散を柱として、物流機能の整備充実を積極的に進めようとしている。

〈和歌山北港区、和歌山本港区〉

本港区は古代において、紀の水門（きのみなと）、雄の水門（おのみなと）と呼ばれたことが、地名に現存しているが、徳川時代には、四国諸藩の貢米船が、江戸に向かう寄港地となり、明治末期には、その取扱量は、木材・木製品・綿織物等で100万トンを超えた。しかし、年々の水害で埋没がひどく、紀の川改修工事の実施に併行して港湾改修工事の必要が叫ばれ、昭和6年より改修が始められた。港湾としての基本施設は、昭和20年頃までに完成し、その後は港内の泊地・航路浚渫・棧橋建設等が一部実施された。昭和5年、輸入木材の増加に対処して輸入原木の専用荷役から整理・貯木・製材に至る一連の作業が出来る木材団地の整備が立案され、昭和38年着工、昭和42年貯木場木材団地用地を完成した。これより先、昭和41年待望の外貿1万トン岸壁の建設に着手し現在4バースが供用している。平成7年7月には韓国釜山港との外貿定期コンテナ航路が開通され、12月には荷役クレーンが供用を開始し、公共外貿機能の中心となっている。

平成13年5月には西浜地区において、40,000トン級の大型コンテナ船が接岸可能な岸壁や、ガントリークレーンを備えた国際コンテナターミナルがオープンし、現在は韓国との間に定期コンテナ航路（週1便）が運行している。

また、徳島～和歌山を結ぶフェリーが1日8往復、就航しており、年間約13万人の乗客と約14万台の車両を運搬し、四国への玄関口として和歌山はもとより大阪、奈良方面の人々に広く利用されている。このように本港地区は和歌山下津港における交流の中心地である。

北港地区は、紀の川右岸に位置し、日本製鉄㈱和歌山製鉄

所が立地する鉄鋼港湾である。また、西防波堤埋立地西側には海釣り公園があり、年間約2万5千人の釣客が訪れている。

〈和歌浦海南地区〉

海南地区は、昭和36年から160haの埋立事業に着手し、現在、石油精製・鉄鋼関連工業などが立地している。

和歌浦湾は万葉の時代から景勝の地として親しまれてきており、毛見地区において、マリーナを核とした親水性の高い都市近郊型のリゾートコンプレックスとしての人口島（和歌山マリーナシティ）を平成元年に着手し、平成6年に土地造成を完了後、「世界リゾート博」が開催された。

現在、和歌山マリーナをはじめ、テーマパーク「ポルトヨーロッパ」やフィッシャーマンズワーフ「黒潮市場」、宿泊施設、温泉施設等がオープンし、年間約350万人の利用者で賑わっている。

〈下津港区〉

本港区は、歴史の関わりが深く、紀州みかんや木材によって一代で財をなした紀伊国屋文左衛門が出帆した地としても知られ、現在では金属製品企業が立地している。

〈有田港区〉

本港区は、有田川筋の柑橘・除虫菊・木材を主とした集散地であったが、貨物は陸送に移り、新しく造成した臨海工業用地に石油精製工場が立地している。

〈各港区の変遷〉

（和歌山北港区、和歌山本港区）

昭和5年	港湾調査会により改修計画決定。翌年工事着手。
昭和8年	第二種重要港湾に指定される。
昭和17年	住友金属工業㈱和歌山製鉄所操業開始。
昭和23年	開港指定される。
昭和26年	重要港湾に指定される。
昭和28年	港湾法にもとづき海南港区、下津港区を含めた和歌山下津港他、県内13港の港湾区域が設定される。
昭和31年	南海汽船が紀伊航路（和歌山～小松島）開設。
昭和40年	特定重要港湾に指定される。
平成7年	釜山との外貿定期コンテナ航路開設。
平成7年	和歌山下津港～釜山港定期コンテナ航路開設。

平成13年 和歌山下津港国際ターミナル供用開始。
平成14年 南海電鉄和歌山港臨港線(和歌山港～水軒)廃止。
平成23年 国際拠点港湾に名称変更

(和歌浦海南港区)

昭和15年 港域を拡張して海南港となる。
昭和36年 用地造成160haに着手、第1地区第3地区昭和38年に完成、第2地区昭和41年に完成。
昭和40年 富士興産海南精油所操業開始。
平成元年 「和歌山マリーナシティ」建設着手、平成6年土地造成完了、世界リゾート博開催。
平成7年 和歌山マリーナシティにおいて和歌山マリーナ(デインギー)供用開始。
平成23年 国際拠点港湾に名称変更

(下津港区)

昭和13年 丸善石油(株)下津精油所操業開始。
昭和16年 東亜燃料工業(株)和歌山工場操業開始。
昭和24年 石油工場の再開発許可、丸善、東燃復旧に着手。
平成2年 高田機工(株)丸善石油跡地へ進出協定。
平成23年 国際拠点港湾に名称変更

(有田港区)

昭和36年 有田臨海工業用地造成に着手。昭和47年完成。
昭和39年 港湾区域拡張により特定重要港湾和歌山下津港に編入される。
平成23年 国際拠点港湾に名称変更